

SDGs 未来都市としま



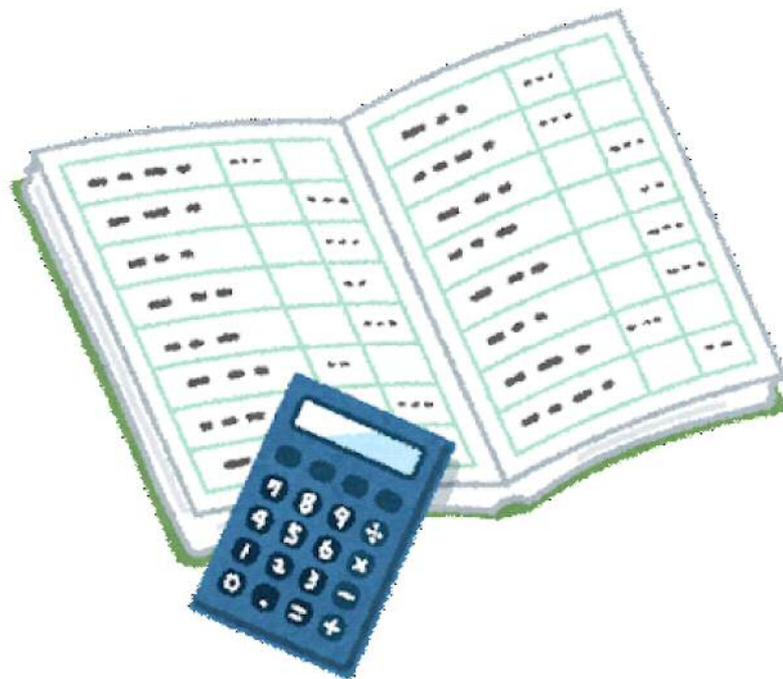
豊島区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



としま区制90周年

豊島区の財務書類

—令和3年度決算—
(概要版)



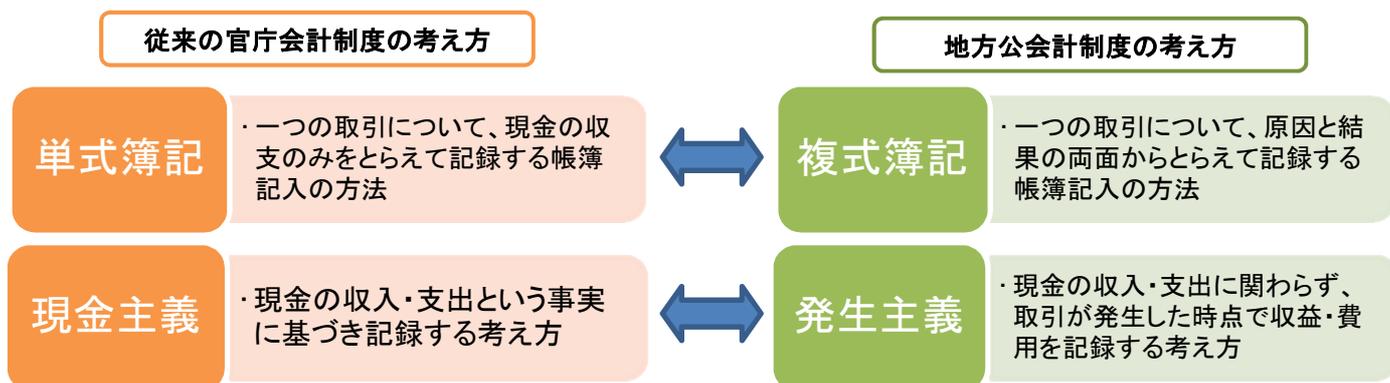
令和4年9月

豊 島 区

1 地方公会計制度について

概要

豊島区では、国からの要請に基づき、平成 29 年度決算より地方公会計制度に基づく財務書類を作成しています。地方公会計制度は、従来の官庁会計とは異なり、複式簿記・発生主義を前提としているのが特徴です。豊島区では、法令で作成が定められている歳入歳出決算書等を補完する資料として財務書類を位置付けています。



地方公会計制度 4つのメリット

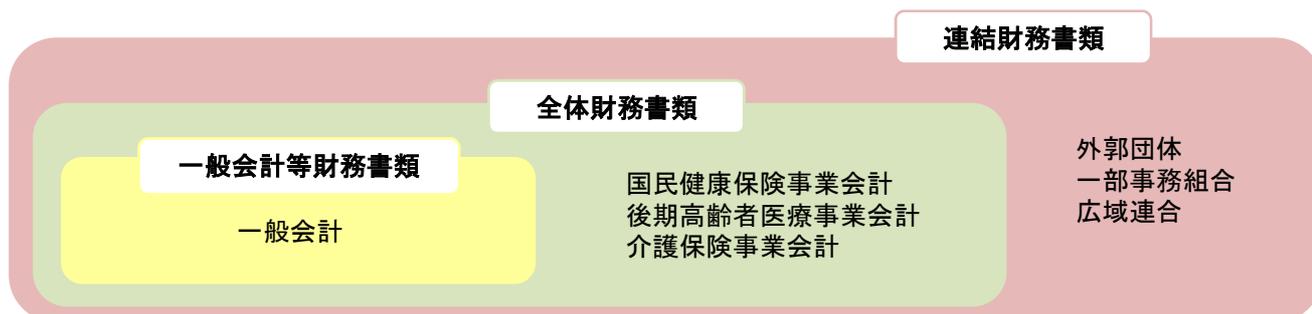
従来の官庁会計による決算書と比べ、地方公会計制度の財務書類は下記のメリット1・2に優れており、それに伴いメリット3・4の効果が期待されると言われています。



対象とする会計の範囲

財務書類には、作成対象とする会計の範囲により「一般会計等財務書類」「全体財務書類」「連結財務書類」の3種類が存在します(下図参照)。

本書(概要版)では、「一般会計等」の財務書類について解説しています。



財務書類 4 表について

財務書類は、以下の 4 つの表で構成されており、また各表は下図のような相互関係があります。

各表の作成基準日や対象期間について、貸借対照表は年度末(3月31日)、他の3表は年度内(4月1日～3月31日)としていますが、いずれも出納整理期間(翌年度4月1日～5月31日)の増減額も含めています。

BS 貸借対照表 Balance Sheet

年度末時点における資産の内容と、その財源(負債、純資産)を表しています。そのため、表の左側(資産)の合計額と、右側(負債+純資産)の合計額は一致します。

資産	負債
将来世代に引き継ぐ資産 (土地、建物、基金等)	将来世代の負担 (地方債、各種引当金等)
現金預金	純資産
	これまでの世代の負担 (税込、国・都補助金等)

PL 行政コスト計算書 Profit and Loss statement

年度内に生じた費用と収益を表しています。現金収支を伴わない減価償却費等も費用として計上しているため、実際の現金の動きとは一致しません。

費用	収益
行政サービスの提供に要したコスト (人件費、物件費、補助金等)	行政サービスの提供の対価 (使用料、手数料等)
	純行政コスト
	費用と収益の差額

CF 資金収支計算書 Cash Flow statement

年度内における現金の収入・支出を3つの区分で表しています。年度末現金預金残高はBSの「現金預金」と一致します。

業務活動収支	経常的な行政サービスで発生する現金収支
投資活動収支	公共施設の整備や基金の積立・取崩等の現金収支
財務活動収支	地方債の借入・返済等の現金収支
本年度末現金預金残高	

NW 純資産変動計算書 Net Worth statement

年度内における純資産の変動を表しています。年度末純資産残高はBSの「純資産」と一致します。

前年度末純資産残高	
△	純行政コスト
+	財源 税込、国・都補助金等
+	固定資産等の変動
本年度末純資産残高	

2 貸借対照表 (一般会計等)

「豊島区の財務書類」(本編)P4～

貸借対照表は、区の財政状態を明らかにすることを目的として、年度末時点の資産・負債(将来世代による負担)・純資産(これまでの世代による負担)を示したものです。資産は区が保有する土地・建物・現金などです。

(単位:百万円)

固定資産

行政活動のために保有する資産や、1年を超えて現金化される資産など

事業用資産

インフラ資産・物品以外の有形固定資産(学校、庁舎、集会室など)

インフラ資産

道路、橋梁、公園など

物品

取得価格 100 万円以上の備品

無形固定資産

ソフトウェアなど

投資その他の資産

基金(特定目的基金ほか)、長期延滞債権、徴収不能引当金など

流動資産

1年以内に現金化できる資産

現金預金、未収金、基金(財政調整基金ほか)など

資産の部	令和3年度	令和2年度	増減額
1 固定資産	375,588	366,523	9,065
有形固定資産	350,767	350,789	△22
事業用資産	230,313	231,735	△1,422
インフラ資産	119,312	117,800	1,512
物品	1,142	1,254	△112
無形固定資産	581	683	△102
投資その他の資産	24,239	15,051	9,188
うち基金 ※特定目的基金等	22,494	13,309	9,185
2 流動資産	32,414	30,223	2,191
現金預金	9,848	9,494	354
未収金	562	721	△159
基金 ※財政調整基金等	22,078	20,114	1,964
その他の流動資産	0	1	△1
徴収不能引当金	△74	△107	32
資産合計	408,002	396,746	11,256

主な項目	金額	決算のポイント
資産合計	4,080 億円 (前年度+113 億円)	基金残高が大きく増加したことにより、固定資産・流動資産とも前年度から増加しました。全体として、着実に資産形成が進んでいます。
有形固定資産	3,508 億円 (前年度△0.2 億円)	造幣局地区防災公園や学校改築・改修の進捗などによる資産の増加と、減価償却や秀山荘・四季の里の売却などによる資産の減少とが均衡し、2年度から横ばいとなりました。
基金 ※固定・流動資産合計	446 億円 (前年度+111 億円)	義務教育施設整備基金が 48 億円、公共施設再構築基金が 36 億円増加したことなどにより、基金残高は大きく増加しました。

負債は将来区が支払わなければならない地方債(区の借入金)や各種引当金などです。純資産は資産と負債の差額となります。そのため、資産合計と、負債及び純資産合計は一致します。

(単位:百万円)

負債の部	令和3年度	令和2年度	増減額
1 固定負債	52,210	53,757	△1,547
地方債	20,571	22,221	△1,650
退職手当引当金	13,445	13,250	195
その他の固定負債	18,193	18,285	△91
2 流動負債	8,429	8,812	△383
1年内償還予定地方債	2,170	2,496	△326
未払金	7	7	1
前受金	250	271	△21
賞与等引当金	1,089	1,096	△7
預り金	4,570	4,700	△130
その他の流動負債	342	242	100
負債合計	60,639	62,569	△1,930
純資産合計	347,363	334,177	13,186
負債及び純資産合計	408,002	396,746	11,256

固定負債

1年を超えて返済時期が到来する負債

地方債

翌々年度以降に償還予定のもの

退職手当引当金

全職員が年度末に普通退職すると仮定した場合の要支給額

その他の固定負債

長期前受金(旧庁舎跡地一括前受地代)、リースの支払債務

流動負債

1年以内に返済すべき負債

地方債(翌年度に償還予定のもの)、前受金、預り金など

純資産

資産合計から負債合計を控除した金額

主な項目	金額	決算のポイント
負債合計	606 億円 (前年度△19 億円)	地方債残高の減少などにより、負債の合計額は減少しています。
地方債 ※固定・流動負債合計	227 億円 (前年度△20 億円)	年度内に25億円を償還した一方、新たな借入は5億円に留まったことから、地方債残高の圧縮が進みました。
(長期)前受金 (旧庁舎跡地一括前受地代) ※固定・流動負債合計	176 億円 (前年度△2.5 億円)	平成27年度に歳入した旧庁舎跡地一括前受地代について、固定負債(その他の固定負債)に173.5億円、流動負債(前受金)に2.5億円計上しており、毎年2.5億円ずつ償却しています。
純資産合計	3,474 億円 (前年度+132 億円)	資産が増加しつつも負債が減少したことにより、資産と負債の差額である純資産も増加しました。

行政コスト計算書は、資産形成を伴わない行政サービスにどれだけのコストがかかっているか等の分析を行うことを目的として、1年間における行政上の収入と行政活動に伴い発生した費用を対応させて表示したものです。

(単位: 百万円)

科目	令和3年度	令和2年度	増減額
1 経常費用 (A)	127,319	139,712	△12,393
業務費用	60,580	53,777	6,803
人件費	23,668	22,020	1,648
物件費等	35,404	30,713	4,691
その他の業務費用	1,508	1,043	464
移転費用	66,740	85,935	△19,196
補助金等	19,342	39,002	△19,661
社会保障給付	37,688	36,665	1,023
他会計への繰出金	9,536	10,007	△470
その他	174	262	△88
2 経常収益 (B)	7,917	9,687	△1,770
使用料及び手数料	2,992	2,923	70
その他	4,924	6,764	△1,840
純経常行政コスト (C = A - B)	119,403	130,026	△10,623
3 臨時損失 (D)	1,789	72	1,718
4 臨時利益 (E)	4	19	△15
純行政コスト (C + D - E)	121,188	130,078	△8,890

経常費用

資産形成を伴わない行政サービス（福祉サービス、ごみ収集など）の提供に要した1年間のコスト

業務費用
人件費、物件費など業務に要したコスト

移転費用
補助金や社会保障給付など、他の主体に移転して効果を発揮するコスト

経常収益

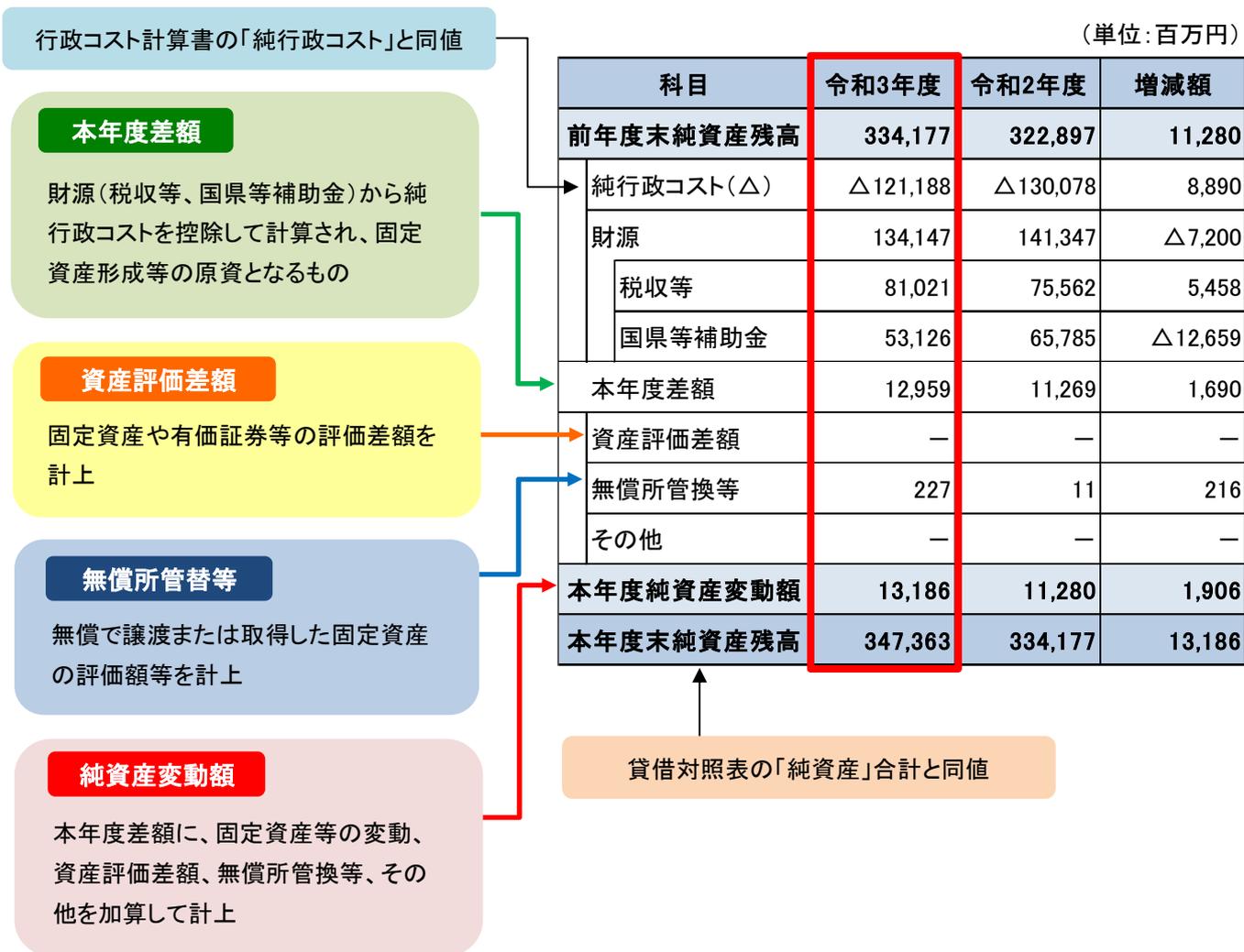
行政サービスを提供する過程で得られた受益者負担等（使用料、手数料、財産貸付収入、基金利子収入など）

純行政コスト

行政サービスの提供に要したコストのうち、受益者負担以外の財源（特別区税、補助金など）で賄わなければならないコスト

主な項目	金額	決算のポイント
経常費用	1,273 億円 (前年度△124 億円)	3年度は新型コロナワクチン接種事業や非課税世帯・子育て世帯への臨時特別給付金事業を実施しました。一方で、2年度には全区民を対象とした特別定額給付金事業を実施していたことから、前年度比での経常費用は大きく減少しています。
経常収益	79 億円 (前年度△18 億円)	2年度は退職手当引当金の算出方法変更に伴う一時的な収益を計上していました。そのため、3年度は前年度比で経常収益が減少しています。
純行政コスト	1,212 億円 (前年度△89 億円)	3年度は秀山荘・四季の里の売却などによる臨時損失 18 億円を計上したものの、経常費用が2年度から大きく減少したことから、純行政コストも減少しています。

純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産」の1年間の増減を示すとともに、行政コスト計算書で計算された「純行政コスト」がどのように税金や補助金で賄われたかを表します。



主な項目	金額	決算のポイント
財源	1,341 億円 (前年度△72 億円)	税金等については、特別区財政調整交付金や地方消費税交付金の増により前年度比+55 億円となりました。一方で、国県等補助金については、国が財源を全額負担した特別定額給付金事業の終了などにより前年度比△127 億円となり、財源全体としては前年度から減少となりました。
本年度差額	130 億円 (前年度+17 億円)	純行政コストの減少(89 億円)が財源の減少(△72 億円)を上回ったことで、本年度差額は前年度より増加となりました。
本年度末純資産残高	3,474 億円 (前年度+132 億円)	前年度末資産残高に本年度差額及び固定資産の無償取得分が上乗せされ、純資産残高は大きく増加となりました。

資金収支計算書は、現金収支を ①業務活動 ②投資活動 ③財務活動の3つの活動区分に分けて表示したもので、キャッシュフロー(資金の流れ)を活動区分ごとに明らかにしたものです。

(単位:百万円)

科目	令和3年度	令和2年度	増減額
1 業務活動収支 (A)	18,470	10,160	8,310
業務支出	121,859	136,286	△14,427
業務費用支出	55,120	50,350	4,769
移転費用支出	66,740	85,935	△19,196
業務収入	140,329	146,446	△6,117
うち税金等収入	81,069	75,399	5,670
うち国県等補助金収入	51,759	63,592	△11,834
2 投資活動収支 (B)	△15,712	△7,614	△8,097
投資活動支出	22,905	14,678	8,226
うち公共施設等整備費支出	5,991	9,778	△3,788
うち基金積立金支出	16,874	4,770	12,104
投資活動収入	7,193	7,064	129
うち国県等補助金収入	1,368	2,193	△825
うち基金取崩し収入	5,726	4,692	1,034
3 財務活動収支 (C)	△2,274	△1,589	△684
財務活動支出	2,794	2,761	33
うち地方債償還支出	2,496	2,502	△6
財務活動収入	520	1,171	△651
うち地方債発行収入	520	1,171	△651
本年度資金収支額 (D = A + B + C)	484	956	△472
前年度末資金残高(E)	4,794	3,838	956
本年度末資金残高 (F = D + E)	5,278	4,794	484
本年度末歳計外現金残高(G)	4,570	4,700	△130
本年度末現金預金残高 (F + G)	9,848	9,494	354

業務活動収支

経常的な行政活動から発生する現金収支

業務支出

職員給料の支払いや物品の購入、補助金支出など行政サービスの提供に要した経費

業務収入

税金や、行政サービスに係る国・都からの補助金など

投資活動収支

公共施設の整備、基金、貸付に係る現金収支

投資活動支出

社会資本の整備支出、基金の積立、貸付金支出など

投資活動収入

社会資本の整備に係る国・都の補助金、基金の取崩しや貸付金の返済など

財務活動収支

地方債や借入金に係る現金収支

財務活動支出

地方債の償還や借入金の返済など

財務活動収入

地方債の発行や銀行からの借入など

貸借対照表(資産)の「現金預金」と同値

資金収支決算書(CF)と、官庁会計における決算情報(歳入歳出決算書)とは以下の関係にあります。

<CF>

<歳入歳出決算書>

収入総額(148,042百万円) = 歳入決算額(148,974百万円) - 前年度からの繰越金(932百万円)

支出総額(147,558百万円) = 歳出決算額(143,695百万円) + 前年度決算の実質収支額(3,862百万円)

CFでは、歳入歳出決算書における前年度繰越金は過去の現金収入と見なし控除します。また、豊島区では前年度決算の実質収支は一般会計を通さず基金に繰り入れますが、CFでは当年度中の現金支出として加算します。

6 財務書類から分かる指標

最後に、財務書類を活用した主な指標について紹介します。

各指標の詳しい内容については、「豊島区の財務書類」本編も併せてご覧ください。

指標	内容	令和3年度	令和2年度	増減
区民一人あたり 資産額 【本編 P17】	(BS)資産合計 ÷ 人口	1,440 千円	1,381 千円	+59 千円
区民一人あたり 負債額 【本編 P18】	(BS)負債合計 ÷ 人口	214 千円	218 千円	△4 千円
純資産比率 【本編 P19】	(BS)純資産合計 ÷ (BS)資産合計 資産形成における、これまでの世代の負担 割合を表します。	85.1%	84.2%	+0.9%
社会資本等形成の 世代間負担比率 (将来世代負担比率) 【本編 P20】	(BS)地方債残高(特例地方債分除く) ÷ (BS)有形・無形固定資産合計 固定資産の形成における、将来世代の負担 割合を表します。	6.4%	6.8%	△0.5%
歳入額対資産 比率 【本編 P21】	(BS)資産合計 ÷ (CF)(収入総額+前年度末資金残高) 蓄積した資産がその年の歳入の何年分に 相当するかを表します。	2.7年	2.5年	+0.2年
有形固定資産 減価償却率 (資産老朽化比率) 【本編 P22】	(BS)減価償却累計額÷(BS)償却資産額 建物や道路の耐用年数に対する経過の度 合いを表します。	39.9%	39.4%	+0.5%
区民一人あたり 純行政コスト 【本編 P29】	(PL)純行政コスト ÷ 人口	428 千円	453 千円	△25 千円
受益者負担比率 【本編 P30】	(PL)経常収益 ÷ (PL)経常費用 行政サービスの提供に対する、受益者負担 の割合を表します。	6.2%	6.9%	△0.7%
基礎的財政収支 (プライマリーバランス) 【本編 P41】	(CF)業務活動収支(支払利息支出除く) +(CF)投資活動収支(基金積立・取崩除く) その年の必要経費を税収等でどれだけ賄え たかを表します。	13,995 百万円	2,722 百万円	+11,273 百万円